

高榮蘭（こう・よんらん）著

# 出版帝国の戦争

不逞なものたちの文化史

サピエンティア 73 / 四六判上製 352 頁

定価 3,520 円（本体 3,200 円＋税） / ISBN978-4-588-60373-0 C3321

## 発禁くらわれないのはろくな本じゃないだろう

帝国日本の出版市場は合法／非合法を問わず、植民地の人々を積極的に読者として包摂しようとした。朝鮮人にとって日本語は抑圧する言語であり、抵抗の思想を学ぶための言語であり、娯楽のための言語でもあった。『戦旗』や『キング』、マルクスやレーニン、金子文子や火野葦平、林芙美子らの思考や文学が、発禁本とともに帝国の支配圏でいかなる思想や文化を醸成したのか、多彩な作品から読み解く。

### 著者

高 榮蘭（こう・よんらん）

韓国光州広域市生まれ。2003 年日本大学大学院文学研究科博士後期課程修了。博士（文学）。

現在、日本大学文理学部教授。専門は近現代日本語文学、翻訳、ポストコロニアル文学研究。

主な業績：『戦後というイデオロギー 歴史／記憶／文化』（単著、藤原書店、2010 年）、『検閲の帝国 文化の統制と再生産』（共編著、新曜社、2014 年）ほか多数。

### おもな目次

#### 第一章 プロレタリア

「共産党宣言」と平民／情報戦時代のスローメディア『平民新聞』

#### 第二章 図書館

焚書と「図書無館」の時代／夜市・露店という空間

#### 第三章 不逞鮮人

朝鮮統監政治の新造語／金子文子・朴烈と「太い鮮人」たち

#### 第四章 検閲

内地と日本語の両義的な役割／検閲帝国の誕生

#### 第五章 資本

発禁という付加価値—雑誌『戦旗』と『蟹工船』／「不逞鮮人」と植民地市場

#### 第六章 植民地

山本実彦の満・鮮／『改造』と『東亜日報』の宴会／改造社の転向

#### 第七章 翻訳

内鮮一体の表象としての翻訳／帝国の小説家・林芙美子の戦線

#### 第八章 戦争

旧帝国の総力戦と軍需株の暴騰／張赫宙の朝鮮戦争従軍記

〒102-0073 東京都千代田区九段北 3-2-3 法政大学出版局 FAX 03-5214-5542

注 サピエンティア 73 出版帝国の戦争 定価 3520 円 冊 書店名・番  
文 ご芳名  
書 ご連絡先